

Fontaine

vol. 28

発行日 2010年7月25日
発行/岸和田文化事業協会〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

『杉江能楽堂』由緒と 岸和田古典芸能の流れ

副会長 行 龍男

『杉江能楽堂』の由緒

大阪府下で民間所有の最古能楽堂が、何故旧岸和田城内にあるのでしょうか。

岸和田藩最後の藩主岡部長職公ながもとは、謡曲を好み来岸の際は、夜を徹して旧交の士と吟じることがしばしばであったということです。

明治23年、長職公が藩治250年祭を記念して能楽を催そうと考えたが、岸和田城の能舞台は、廃藩の際、泉佐野の蟻通神社に献納されていたので、城内に仮舞台を組んで催されました。

その後、藩治300年祭の話が出たときに、是非今回は能楽堂をということで、長職公の協力の下に観世流能楽師、杉江櫻園氏さかきにより建てられたものです。この能楽堂は、旧城内はしかがりにあった能舞台の橋懸を賜り、大正6年に建立を見ました。現存する府下最古の能舞台で国宝に指定されている「西本願寺北舞台」の形式を踏まえたひなびた舞台で、前庭の白州と三本の地植えの松、舞台を取り囲むようにL字型に別棟の見所（観客席）が設けられています。

舞台と見所が別棟であることから、四季の風を肌で感じることができ、「能」本来の野外で演

じられた頃の趣の一端を楽しむことができます。

藩治300年祭の前日に、能舞台のこけら落としとして謡会が長職公を主賓として催されています。

舞台の広さは、本来は、京間三間四方ですが、杉江能楽堂は、少し小ぶりで二間半四方です。

舞台正面に長職公自ら揮毫された「国華」の額が掲げられ独特の風格を添えています。

昭和42年に修理改修。その際に、杉江櫻園氏によって描かれていた鏡板の老松を、鏡板を削り、日本美術院々友、樋口富麻呂画伯の筆により、見事な気品の高いものに描き直されています。この改築を記念して、長職公の嫡子長景公ながかけの筆になる「和楽全」と御揮毫賜り、額にして、見所の座敷に掲げられています。



昭和61年には大阪府より、長年にわたって能楽堂の保存と毎年の謡曲会主催をして地域文化に貢献したとして、当時の知事から「杉江能楽堂保存会」が表彰されています。

個人所有の能楽堂を90年以上維持管理された上、その活用と、地域文化の向上に努められてきた堂主谷口博之氏に感嘆の念を禁じ得ません。

『能楽堂』と古典芸能

鎌倉時代の猿楽や田楽の伝統を受け室町時代以降芸能界の主流として歩んだ「能」は、江戸時代に入ると、徳川幕府の御用芸能(武家式楽)として安住したため、一般庶民には縁の薄いものになりました。しかし、消えかかっていた「能」への思いを繋いだのは、「謡」です。能の詞章を囃子の伴奏なしに能から離れて単独に歌うのが「謡」です。

岡部長職公は、金春流の謡曲を好み、お国入りの節には旧家臣を集め、この舞台で1日謡曲を楽しまれました。藩治300年祭の際も式典の前日能狂言を催し、大槻松陽のシテ、杉江櫻園のワキで「山姥」を演じ、長職公本人が、シテで「遊行柳」を演じ、その後、夜を徹しての謡曲会を楽しまれました。戦前、舞台数が限られていた頃は、京都・大阪の高名な先生方がこの舞台で舞われ、京阪神の多くの愛好者が、岸和田の能楽堂で楽しまれました。



杉江能楽堂で謡曲会 左端長職公

また、「学生能」が催され、旧岸和田中学校や旧岸和田高等女学校の生徒達が能狂言を鑑賞しました。

戦後、昭和23年から岸和田市で文化祭が実施されていますが、流派の垣根を越え、第二回目から、市民が参加する岸和田謡曲会として発表の場を杉江能楽堂で参加し現在まで続いています。



岸和田謡曲会

平成4年には、府民劇場杉江能楽堂の夕べが催され、大好評でした。(右写真)



平成19年には、創立 片山幽雪氏 片山清司氏 90周年と銘打って「お祝い会」も開かれました。

春・夏・秋の定例の謡曲会、秋の岸和田市文化祭参加の岸和田謡曲会の発表、不定期であるが、能や狂言の舞台、時には日本舞踊の舞台としても利用されました。年々、このすばらしい能楽堂が認知され活用されています。

地方の能楽文化の殿堂として多大な役割を果たしてきましたが、今後とも更なる活用を通じ、岸和田の古典芸能の興隆を願っています。

今年の10月1日(金)に、岸和田文化事業協会が「能舞台で奏でる和洋の響き」の催しを計画をしています。是非ご臨席下さい。

岸和田文化事業協会、平成22年度定時総会を開催

岸和田文化事業協会平成22年度定時総会は、5月29日岸和田市立自泉会館で開催されました。

松本則子会長は「会長になり1年が経ちました。私は40年間人形劇をしながら、いろんな行政と力を合わせ、街づくりにかかわって来ました。市民の税金を使う大変さ、市民のほうに向かって仕事をする大切さを感じてきました。皆さんと力を合わせ、この誇りある自泉会館から良質の文化を発信し、近隣の行政・市民とも力を合わせ、泉州の文化を発展させたいと願っています。今年度の受託事業は、大阪音楽大学と連携しますが、会員皆様のご協力をいっぱい頂き、岸和田の文化を盛り上げたいと考えています。この1年も頑張りますのでよろしくをお願いします。」と挨拶されました。

来賓の野口聖市長は「文化は街づくりの基本です。政治不透明のなか、生活に潤いを与える文化・芸術は幅広く一朝一夕になしえないものです。古いものを大事に、新しいものを育む心が大切です。自泉会館の指定管理者である岸和田文化事業協会に、文化の振興を期待しています。」と

祝辞を下さいました。

ついで大阪文化団体連合会事務局長金森重裕氏は「今、文化にとって厳しい時代です。大文連の総会は先日終わりました。ここの総会はしゅんしゅんと終るのでなく意見が出るのが羨ましく思います。いいものを作り上げるために意見が出ることは大切なことです。私はこの自泉会館に来るのが楽しみです。この総会前にオルガンコンサートが開かれましたが、こんな間近に生の演奏に触れることは素晴らしいです。電車に乗って大阪まで出かけなくても、この自泉会館を中心に多くの人が集まり文化を楽しむ場所にしてほしいと願っています。」と祝辞を述べられました。

また、来賓として西川企画調整部長、佐原岸和田文化財団事務局長がご臨席くださいました。

次に議事に入り、議案の平成21年度事業報告、同決算報告、平成22年度事業計画(案)、同予算(案)が承認されました。

そのあと、2部では楽しく和やかな懇親会とゲームが繰り広げられました。(紙野)



平成22年度岸和田文化事業協会総会

Cultural Hot Spot In Kishiwada

宝塚歌劇団 月組 新トップスター 霧矢 ^{ひろむ} 大夢さんに直撃!

岸和田市出身の霧矢大夢さんが、4月の月組公演
「THE SCARLET PIMPERNEL(スカーレット ピンパーネル)」で、
トップスターとして主人公パーシー・ブレイクニーを演じられました。



Q：トップ就任おめでとうございます。お披露目公演は初舞台生と一緒に舞台に立たれましたが、ご自分の初舞台はいかがでしたか？

A：宝塚音楽学校に入学してからは、年間勉強の日々だったので、早く舞台に立ちたいと思いつけ、「やっとスタートラインに立てた」と、嬉しかったのを覚えています。

Q：宝塚歌劇団に進んだのは、ご家庭の影響などがありますか？

A：普通のご家庭でしたが、母が姉と私に幼少時からクラシックバレエを習わせてくれました。中学のとき、叔母に宝塚へ連れて行ってもらい、初めて舞台を観ました。クラシックバレエより男役がおもしろそうなので、中学校を卒業したら入団したいと思いましたが、両親の希望で久米田高校に入学し、在学中に宝塚音楽学校に進みました。

Q：宝塚音楽学校入学後から現在まで、岸和田との関わりはいかがですか？

A：音楽学校では寮生活で岸和田を離れましたが、岸和田祭りや週末には音楽学校の同期生や友達を実家に招きました。最近は忙しくて岸和田に帰れませんので、公演時は両親が宝塚に観に来てくれます。久米田中学校時代はマラソンで久米田池のまわりを走ったこともあるんですよ。



©宝塚歌劇団

Q：霧矢大夢のお名前はどのようにつけたのですか？

A：名づけ辞典を買って自分で考えました。霧矢は珍しいでしょう？少し硬いですが。大夢(ひろむ)は、希望がわいてくるような名前なので特に気に入っています。

Q：1ヶ月も続く公演では、体調管理が大変だと思いますが、気をつけてらっしゃることは？お休みの日はどう過ごされていますか？またお好きな食べ物は？

A：よく食べ、よく笑い、よく眠り(笑)、水分もたくさんとることを心がけています。休みの日にはお料理をしたり、愛犬の世話もしています。好き嫌いがなく、泉州の水ナスや玉ねぎも、もちろん好きですよ。

公演前のお忙しい時間をさいて、
気さくに色々お話くださってありがとうございました。

4月に公演を観させていただきましたが、歌、踊り、お芝居と三拍子揃った素敵なトップスターでした。それでいて、親しみを感じることができるのは岸和田人(?)だからでしょうか。これからも益々のご活躍をお祈りいたします。

理事 金丸 晏子

岸和田には多くのすばらしい先人たちがおられます。いろいろな分野で活躍された岸和田ゆかりの著名な方々をご紹介します。



校処分をうける。その八月上京し早稲田尋常中学校の最上級生として編入学した。その翌春十九名の級友達と第一回卒業生となる。その後、京都の第三高等学校から東京帝国大学へすすみ西洋史学を専攻し、卒

岸和田に生まれた偉大なる考古学者

濱田 耕作 (青陵)

十七歳のころ その日誌にみる

明治三十一年八月二十三日 起
八月二十三日 晴

(火)五時起床 七時二十分 岸和田駅発ス。
蓋し余ハ東京ニ行キ、祖母ノ草津ニ帰ルヲ送ランガ為メナリ。…略… 汽車動クニ及ビ
米子泣ヲ被ヒ光雄ノ奇異ナル顔色ヲナシテ
停車場ヲ出テ行クナド余ハ其悲哀ノ情ニ堪ヘザリキ 午前八時灘波駅ニ着ス。…略…
この青陵日誌とは、明治三十一年八月二十三日上京、早稲田中学校に編入学し、その翌卒業までのおおよそ半年の間記述されたものである。

濱田耕作は、明治十四年岸和田に生まれた。彼十三歳の頃に和泉三帝陵を巡拝し「山陵図志」の編纂を計画している。その四月大阪府立第一尋常中学校(現府立北野高等学校)に入学。父源十朗は台湾総督府史員となり単身赴任されていた。

五年生の六月のことである。厳格な校内規律に反し、一体操教師に反抗したという理由で退

業後しばらく母校早稲田中学で歴史の教鞭をとっている。間もなく京都帝国大学に招かれ、ヨーロッパ留学後、同校に我国初の考古学講座を開いた。その間、各地で考古学調査に従事し、その調査は広く大陸にまでおよんでいる。そして文学部長から昭和十二年には大学総長に選ばれた。が不幸にも健康を害し、翌十三年五十七歳で惜しまれながらこの世を去ってしまう。

さて東京にての十七歳の耕作は、親戚の牛込区若松町の小田豊方に身を寄せていた。二十九日には早稲田に赴き受験手続きをすませていく。九月二日に漢文と数学の試験を受け、日誌には「不良之方」と記しているが、翌朝出校して「好結果合格」であった。

九月六日 曇風

(火)朝来静居 制服無之為十二日マデ休校ス。その間耕作は、もっぱら市内を散策したり、東京人類学会例会に出席している。

この学会参加は、彼、早熟中学生にとって、なんともたまらない魅力であったろう。翌年四月離京するまで毎月出席し(十月のみ欠席)坪井正五郎、鳥居龍蔵、八木斐三郎など多くの考古学の先達たちに面識教導を得た。また近郊の遺跡見学も頻りで、池袋や日暮里、品川大井に足をのびしている。そして鳥居龍蔵に誘われ国分寺府中や北区西ヶ原付近をも歩く。このような探索の遠足がどんなに彼を楽しませたか「夢はまさに石器時代の人民と共に遊ぶべし」とその日の日誌に精細に記されている。



17歳の頃の濱田耕作

明治三十一年八月の肉親との別離という悲痛事を日誌はあまり感じさせない。早くから考古学人類学といった学問に目覚め、退校となった六月には、処女論文「河内国野中村古墳について」を人類学雑誌に発表している。

上京は、彼にすれば斯学の本拠地への大きな門出であったのだろう。

濱田耕作は「ぼくは退官すれば、郷里の岸和田に帰って小学校の子どもに考古学を教えようと思う」と言っていたそうである。その熱い思いは現在『濱田青陵賞』として、若い考古学者を育てている。

耕作は歴史の面白さ、考古学の楽しさ、学問の素晴らしさを、それ以上に人間として生きる尊さを子どもたちに伝えたかったのではなからうか。

十七歳の濱田耕作が早稲田中学在学中に好奇の眼を輝かせ出席した東京人類学会や常に散策した紀尾井坂、友人たちと菓子进行し、ゲームに興じた神楽坂辺りの貸席清風亭。

平成の時代、古の面影の失われた紀尾井坂や神楽坂、戸山の辺りを好奇の眼で嬉嬉と歩いた一日を私は今懐かしく想い浮かべている。

平成十年一月十三日(月)晴

青天に恵まれた暖かい師走の好日である。

きしわだ昔話歳時記 第三話

「狐と戻り湯」

劇作家 藤田 保平



どーと昔のことやけどね、岸和田村の里池のひとつに狐の親子が住んじゃった。どこに住んでらていうたら、池のヨゲ（余水吐け）の横の穴に住んじゃあった。ヨゲのところちゆのはね、大概ドンドン（漣）になってろわ。

そのドンドンへさして池から跳ね出す魚もいてりや、川から遡（のぼ）ってくる魚もいちゃって毎日の餌には困らんちゅうこっちゃのう。

さ、そんな或る日のこっちゃやけどね、こないだの大雨の時に親狐が逃げよとして足滑らして腰打って大弱り。子狐が草の葉やら取ってって冷やしたりして看病してんやけどそない直ぐには治らん。……………

子狐「お父ったん、今日はいっつもと違（ちが）って何や知らん堤の上を仰山人（ぎやうざん）が通るでえ」

親狐「ほうか、ほたら今日は何日なら」
子狐「今日か？ 今日（けふ）は六月の十五日や」
（これは旧暦。平成二十二年では七月二十六日に当る）

親狐「ほうか、ほたら、もう戻り湯（もどりゆ）のう」
子狐「戻り湯？ 戻り湯（もどりゆ）で何や？」

親狐「戻り湯（もどりゆ）ていうたらね、六月十四日、つまり昨日（きのう）はね、大阪の住吉さん、住吉神社のお祭りやったんや、ほんでそのお祭りにね、お神輿（みこし）担いで海へ入って海の水でそのお神輿（みこし）を洗うんやてよ」

子狐「何で海の水で洗うんやいな？」

親狐「何でも住吉さんは海の神（かみ）さんやそうなさかい、そないすんやろかい」

子狐「ふーん……………」

親狐「ほいでね、そのお神輿（みこし）を洗（あら）った海の水が、今日は岸和田の浜へ流れてくるんで、その汐水（しほみづ）で足を洗（あら）うたら一年中無病息災（むびんそくさい）で暮（く）らせるちゅうて、人間共（にんげんども）は『戻り湯（もどりゆ）』ていうてみな浜へ足浸（あしひた）けにいくんじや」

子狐「人間（にんげん）に効（き）くんやったら、わいら狐（きつね）にも効（き）くやろか？」

親狐「さあ、そこ（そこ）のとは判（わか）らんけどね」

子狐「ほたらなお父（ちち）ったん。わいらの仲間（仲間）は稲荷（いなご）大明神（だいめいじん）、つまり神（かみ）さんのお使番（つかいばん）さしてもろてるくらいや。人間（にんげん）に効（き）く戻り湯（もどりゆ）やったら狐（きつね）のわいらにも効（き）かん訳（わけ）ないやろ」

親狐「そらまあ、そない言（い）やあそんなんもんかのう」

ていうよな次第（しだい）で戻り湯（もどりゆ）に浸（ひた）かったら親狐（おやきつね）の腰（こし）の怪我（けが）もようなるやろ。そやけど狐（きつね）の姿（すがた）のなりで出（で）かけたら、浜（浜）まで行（い）かん間に人間共（にんげんども）に追（お）いかけて廻（まわ）される。ここ（ここ）は一番（いちばん）、人間（にんげん）に化（ま）けて行（い）くより他（た）に方法（かた）はなかる。ちゅうて、人間（にんげん）の親子（おやこ）に化（ま）けて、親狐（おやきつね）は痛（いた）い腰（こし）をかばうて、出来（でき）るだけ犬（いぬ）の居（い）らん道（みち）をソロソロと浜（浜）へ辿（たど）りつた。

浜（浜）へ着（き）いてみたら遠浅（とんせん）のキレイな砂浜（すな）に、男（おとこ）も女（めづ）も子どもも年寄（としよ）りも、そらもう仰山（ぎやうざん）の人出（ひとで）、ほて、みな思い思（おも）いに膝（ひざ）の上（うへ）まで着（き）物をめくって足を浸（ひた）けてる。

中に一人（ひとり）の男（おとこ）、胸（むね）まで着（き）物をたくし上げて尻（しつぽ）まで汐水（しほみづ）に浸（ひた）けてる。

親狐（おやきつね）「あんた何（なに）してんやいな」

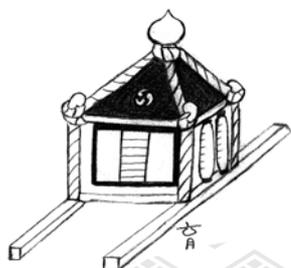
男（おとこ）「さあいな、わい痔（ぢ）やさかいな、直（じか）に尻（しつぽ）浸（ひた）けたらよう効（き）くと思（おも）てな。あんたどないした、腰痛（こしいた）か？ ほなあんたも直（じか）に浸（ひた）けなはれ、わし手伝（てづ）たげますわ」

親狐（おやきつね）は着（き）物（もの）めくられたら狐（きつね）の太（ふ）つとい尻尾（しつぽ）がばれたらかなわんで慌（あわ）てて、着（き）物の裾（すそ）を抑（おさ）えて逃げた。

そんなこんなで特に晩（ばん）は夜店（よてい）も出（で）て、夕涼（ゆすや）みがてらの人（ひと）らも来（き）て、岸（き）和田（わ）の浜（浜）は大概（たいがい）賑（にぎ）やかやったんや。

えッ？ 何（なに）やて、そいで親（おや）狐（きつね）の腰痛（こしいた）治（な）ったんかてか、ああ、それ聞（き）くのん、ころっと忘（わす）れたわ、ハハハハハ。

……………
ピッカラドンのポン。



誇れる

岸和田
パワーに

自泉会館



ヴァイオリン奏者
池上 尚里

大学卒業後、活動の中心が大阪市内になっていた私は、ここ数年泉州で演奏したいと強く思うようになってきました。なぜなら泉州で長年応援してくださる方へ感謝の気持ちと、文化豊かなこの土地が私に何かメッセージをくれるような気がするからです。

オーケストラに所属していると演奏旅行へ出掛ける機会が多くなります。その土地の方と触れ、文化を知る事はとても楽しく勉強になります。それが地元でできるとなれば私にとってこれほど嬉しいことはありません。(実際、家に寝に帰るしかない私が、胸を張って『泉州人』と言えるのか?!疑問ではありますが…)。

地元での演奏活動では、仲間に、「自泉会館ホールの響きの良さ」「街の歴史やだんじり」「美味しい食べ物」「泉州の人の暖かさ」を紹介しています。皆さん 南大阪の元気パワーに驚かれ、気に入って2、3回参加されている方もいます。私の周りに、確実に岸和田ファンが増えつつあります。

文化とは、芸術だけではなく、生活そのものだと思います。

ドイツへ演奏旅行に出掛けた時、演奏場所は各地の教会でした。教会は人々にとって生活の拠点です。そこで、キリスト教徒ではない日本人が演奏するのは、信じられないことのように思います。しかし沢山の方が教会に集まり、受け入れ喝采してくださいました。遠い異国からの日本人に!!

日曜礼拝以外の教会を覗くと、教会は人々の安らぐ場所となっています。先生が小学生を引き連れ歴史や彫刻、壁画から美術を教え、オルガン奏者が練習をし、祈りを捧げる者があり、旅人が観光するという、あらゆる人々の生活の場でした。生活から文化が生まれる瞬間を、この時、見たように思います。

日本では、ヨーロッパの教会のような場所がありませんが、この自泉会館が自然と人々の集う生活の場であったら素敵だなと思っています。

職業はライター、および出版プロデューサー。平たくいうと、雑誌や新聞、書籍の文章を書いたり、本を出したいという依頼主に代わって執筆したり、出版に関するあれこれを手伝って糊口をしのいでいる。

当協会の会員になったのは三年前、仕事で自泉会館の取材を行い、そのときに勧誘されたのがきっかけだ。そして去年、理事に推薦され、本業と通じるところもある広報部に所属。「ふぉんてーぬ」の制作に携わってはいるものの、専門家としての知識をひけらかし、何かと口幅ったい意見を述べていることに対し、この場を借りてお詫び申し上げたい。

とはいえ、端くれとはいえ理事の立場にあるわけだから、それなりに尽力はしたいと思っているし、協会の活動方法や自泉会館の活用法に関して「もうちょっと、何とかならんのかいな」という考えも持っている。字数に限りがあるため詳しく記すことはできないが、提案できる機会があればありがたい。

しかしながら、本業をおろそかにすることはできないので、時間的な余裕もないし、思いついた提案事項を実行に移すことも難しい。今でも結構、「幽霊理事」になってしまいそうな状態なので、正直、ジレンマは感じている。

実のところ、「何とかならんのかいな」の矛先は、自分自身に向けられているのかもしれない。この点についても関係者各位に対し、重ねてお詫び申し上げます。

幽霊理事のお詫び文



理事
齒黒 猛夫



アンケートからの抜粋

Event Report

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

第3回フレッシュプレミアムコンサート ～未来へここから～

平成22年3月20日(土)に、平成21年2月～平成22年1月のフレッシュコンサートの出演者の中から8名を推薦し、マドカホールでコンサートを実施し、149人の入場者がありました。



〈皆さんの声〉

- 珍しい楽器のユーフォニュームが楽しかった。
- 弦楽器も入れてほしいと思いました。また、全体のプログラム構成が変化に欠けていると感じました。
- ダンジリの表現は交響詩的でした。

会員対象事業 「薬膳料理講習会」

平成22年3月30日(火)に、浪切ホール4階、食の交流室にて、こかど ひでこ氏を講師に迎え「薬膳的生活と健康法」をテーマに、19人の参加者が調理実習と試食をしました。



〈皆さんの声〉

- 体に優しい食材でこんなに素敵な料理が作れるとは……
- 初めての料理にチャレンジ、男性でもやればできる。
- 先生のお声が少し聞きにくかったです。

第19回自泉フレッシュコンサート ～春風にさそわれて～

平成22年4月23日(金)に、ヴァイオリン、ピアノ、ピアノデュオのコンサートを自泉会館ホールで実施し、61人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- リストのピアノ良かったです。パッハは優雅な気分になりました。
- ブラームスが目的で来ました。ヴァイオリンのソロが聞きたかったです。
- ピアノ2台は迫力があり、見入ってしまいました。
- 「のだめカンタービレ」のヨーロッパのシーンを生で味わえた感じがしました。



スミス・アメリカン オルガン コンサート

平成22年5月29日(土)に、1880年ごろ製作された岸和田市所有のスミス・アメリカン社製オルガンの懐かしい音色を楽しむコンサートを自泉会館ホールで実施し、69人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- 岸和田の町でオルガンの歴史があることを知りました。
- 会場の雰囲気ピッタリの美しいリードオルガンの音色に感動しました。
- 小学校の教室で、いつも聞いていた懐かしいオルガンの響きに接して感激しました。



岸和田ゆかりの ソリストを集めて 第3弾

平成22年6月4日(金)に、岸和田ゆかりの音楽家で、既に第一線で活躍されている先生方の演奏会を自泉会館ホールで実施し、91人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- ボエーム、とってもお洒落できれいな声で華やかでした！
- ピアノのロンドが非常に良かったです。
- ヴァイオリンの「チャールダーシュ」がすごいテクニックだなと思いました。
- 子どもさんへのお茶の接待などの気づかいも優しくアットホームでした。



第20回自泉フレッシュコンサート ～緑の風にさそわれて～

平成22年6月13日(日)に、クラシックギター、ピアノ、三線(さんしん) & ソプラノのコンサートを自泉会館ホールで実施し、73人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- 三線の歌で背筋がピンと伸びました。
- ピアノの演奏が力強く、また繊細な音色に圧倒されました。
- ギターの選曲がマニアックで面白かった。
- ピアノ・ギターとも、もう少し知っている曲を聞きたかった。



岸和田文化事業協会の事業 Information

第21回自泉フレッシュコンサート ～真夏のさわやかコンサート～

音楽を学びプロフェッショナルとして歩み始めた
新人演奏家によるコンサート

日 時:平成22年8月8日(日)午後2時開演

会 場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:中尾 淳子(ピアノ)

西川 真由美(ピアノ)

榎井 英里奈(ピアノ)

入場料:一般前売 1,200円

会員前売 1,000円(当日200円増)



能舞台で奏でる和洋の響き

岸和田に能楽堂があるのをご存知ですか?
能の舞台で和洋の饗宴!

和の調べと洋のメロディを聞き比べませんか?

日 時:平成22年10月1日(金)午後7時開演

会 場:杉江能楽堂

入場料:一般前売 2,500円

会員前売 2,000円(当日300円増)

出演者: 和楽 シテ方 浦田 保親・深野 貴彦
囃子方 笛 :杉 信太郎 小鼓:古田 知英
大鼓:谷口 有辞 太鼓:前川 光範
洋楽 チェロ :音登夢(木村 政雄)
ヴァイオリン :音登夢(木村 直子)
ソプラノ :角野 芳子

音楽世界旅 VOL.2 イタリア編

レクチャー・コンサート

ヴァイオリンの聖地 イタリアから

イタリアの作品を集めて、「名器」の音色と共に、
ヴァイオリンの仲間たちの珍しい音色をいろいろとご紹介します。

使用楽器

ヴァイオリン 1720年ナポリ A.ガリアーノ作
ピッコロ・ヴァイオリン 1720年クレモナ A.ストラディヴァーリ作
ステッキ・ヴァイオリン 19世紀ドイツ製
キット・ヴァイオリン 西ヨーロッパ製
ストロー・ヴァイオリン 20世紀イギリス Ch.ストロー製
ヴィオラ 1907年頃ドイツ製

日 時:平成22年9月4日(土)午後2時開演

会 場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:お話:西岡信雄

演奏:松田淳一(ヴァイオリン)

松田淳子(ピアノ)

入場料:一般前売 2,500円

会員前売 2,000円(当日300円増)



イタリアを体験しよう!!

イタリアを感じる展示や体験コーナー。

- ヴァイオリンの製作模型展示
- ガラス細工作り体験
- オペラ上映会 他

日 時:平成22年9月3日(金)～5日(日)

午前10時～午後5時

会 場:岸和田市立自泉会館展示場

入場料:無料

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化情報

平瀬バレエアートスタジオ40周年記念発表会

今年は創立40周年に当たります。日頃の成果を披露いたします。

日 時:平成22年8月8日(日)午後3時半開演

会 場:浪切ホール大ホール

入場料:無料

主催者:平瀬 有里

出演者:プロダンサー及び研究生

問合せ:平瀬バレエアートスタジオ TEL 072-432-7527

平成22年度(平成22年4月～平成23年3月)

会員募集

年会費(入会費不要)

個人会員(1口)	2,000円	団体会員(1口)	5,000円
家族会員(1口)	1,000円	法人会員(1口)	10,000円
(個人会員の同居家族)		特別会員(1口)	50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。

郵便振込の場合は
口座番号 00970—9—28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

nouvelle Fontaine vol.28

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2010年7月25日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・歯黒猛夫
藤田保平・本郷元子

編集後記...

先日、母校の和泉高校を久しぶりに訪問し、校長先生が土曜日に主催されている英語会話クラスを拝見させていただいた。生徒を見ていて驚いたのは、私が在学していた約40年前と同じ“和泉高校の流れ”いわゆる“校風”を感じた事だった。そこに新しい活力のある校長先生が入り、“新しい流れ”を生み出そうとされている。どのように生徒が変化していくのか。その変化を楽しみに思い、自分も応援をしたいと思った。

岸和田文化事業協会にも“今までの流れ”いわゆる“自泉会館はこんな場所だ”と言うイメージがあると思う。先輩から引き継いだ流れを受け継ぎ、さらに“新しい流れ”を生み出すことも必要と思う。文化事業協会の“今までの流れ”や“新しい流れ”の発信にこの情報誌が役立つことを願う。

記事の内容やご意見等もお寄せ下さい。皆様宜しくお願致します。

(和田)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索